## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Kelo Associated Reposi	
Title	書かれる伝統のなかった言語における文語体創発のメカニズムに関する研究
Sub Title	A study on mechanism of the emergence of literary style in a language that has no tradition of writing
Author	加藤, 昌彦(Kato, Atsuhiko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
Abstract	ミャンマーを代表する少数民族であるカレン族の言語のひとつ東部ボー・カレン語が、この言語 の標準的文字である仏教ボー・カレン文字を用いて様々な場面で書かれるようになったのは、1960年代以降である。文語体は通常、古い形式が書記言語に残るために生じるのだが、書記言語の歴 史の短いこの言語にも文語体と呼べる文体がある。本研究の目的は、この言語の文語体発生の経 緯を明らかにしつつ、言語における文語体発生のメカニズムを探ることである。 この言語の文語体の特徴として、(1)文末助詞/law55/の多用、(2)関係節標識を用いた関係節の多 用、(3)対句表現の多用、という3点を挙げることができる。考察の結果、下記のようなことが分か った。なお、この護論における前提として、(a)書記言語には不特定多数の読み手が存在すること 、および、(b)様々な場面で読まれることが想定されるため書記言語には丁寧さや絢爛さが要求さ れること、の2条件が増定される。 まず、文末助詞/law55/は、元来、大勢に向かって話しかける場面で丁寧さを表すために使われる 。この特徴は上記(a)(b)の条件を満たす。そのため、書記言語にはいて/law55/が多用されるよう になったと考えられる。次に、関係節標識の多用については、関係節標識を用いた関係節形成は 、最近は廃れつつある比較的古いが結特徴である。そのために由緒正しい統語法と見なされ、(b) を満たすため書記言語で用いられるようになったと考えられる。最後に、対句表現は、シナ・チ ペット祖語にも遡れる可能性のある修辞法であり、これを用いるあらゆる言語において、絢爛た る趣きを出す効果を持つ。そこで、(b)の条件を満たすため、書記言語において、約40点が使われる ようになったと考えられる。 この研究によって明らかになった重要な点は、文語体の発生に長い書記言語の歴史は必ずしも必 要ではなく、口頭言語の様々な言語特徴を組み合わせることによって、新たに文語体が創り出さ れ得るということである。 This research project considers how the literary style emerged in East Pwo Karen, which only has a relatively short story of writing language, and at the same time considers how a literary style emerges in a human language. The literary style of Pwo Karen is characterized by following three features: (1) the sentence final particle /law55/ appears frequently, (2) relative clauses with the relative marker appear frequently, and (3) elaborate expressions (c) parallelism) are used frequently. As premises of our generalization, the following three features: (1) the sentence final particle /law55/ appears frequently, (2) relative clauses with the relative marker appear frequently, and (3) elaborate expressions (c) parallelism) are used frequently. As premises of our generalization, the following three features: (1) the sentence final particle /law55/ is a form which is used in the colloquial style when a speaker speaks to a lot of listeners in order to express politeness. Since this feature satisfy both conditions (a) and (b), the particle frequently appears in the literary style. Second, using the relative in Pwo Karen is an old syntactic procedure which is novaday
	necessary for the emergence of a literary style. A literary style can be created by combining features of colloquial language.
Notes	necessary for the emergence of a literary style. A literary style can be created by combining
Notes Genre	necessary for the emergence of a literary style. A literary style can be created by combining

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or

publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2018 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	言語文化研究所	職名	教授		200 (4) -
	氏名	加藤 昌彦	氏名(英	語) Atsuhiko Kato	——— 補助額	300 (A) ∓I
			研究課題(日	本語)		
書かれる伝統の	のなかった言語	における文語体創発のメカ	ニズムに関す	る研究		
		<b>6</b> 11	研究課題(			
A study on mee	chanism of the	emergence of literary style	in a language	that has no tradition of writir	ng	
		1	. 研究成果実	 績の概要		
文字を用いて 材 るのにしつ言が たの たの で で で で で で で で で で で で で	様々語のは、 な 場合に に な で ま た な の の の し な し の の た れ の の の し た の の る っ と 、 に れ の の る っ と 、 に れ の の る っ と 、 に れ の の る っ と 、 に れ の で っ る っ と 、 に れ の ち る っ と 、 に れ の ち る っ と 、 に れ の ち る っ と 、 に れ の ち の る っ と 、 に れ る 、 し い ち う 、 に い う る 、 し 、 、 に い う る 、 し い ち う こ 、 、 に い こ う に 、 に い う こ し 、 に い う こ し い に い こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ に い こ に い こ に い こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ こ に い こ こ に い こ こ に い こ こ こ に い こ こ こ い い こ こ い い こ こ こ こ こ こ こ こ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ ろ ろ こ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	法族であるカレン族の言語の かれるようになったのは、1 り短いこの言語にも文語体と 酒体発生のメカニズムを探る して、(1)文末助詞 /law55/ その結果、下記のようなことだ いが、(b)様々な場面で読まだ 、元来、大勢に向かって話し において /law55/ が多用さ 最近は廃れつつある比較的 こうになったと考えられる。量 において、絢爛たる趣きを られる。	ひとつ東部ボ 960年代以体か にとてたる。 の多かった。 の多かった。 の多かった。 の多かった。 の りた。 は た の りた。 に た の の の の の の の の で て の の で の の の の で の の の の	ー・カレン語が、この言語の構 である。文語体は通常、古い がある。本研究の目的は、この 係節標識を用いた関係節の お、この議論における前提と されるため書記言語には丁 で丁寧さを表すために使われ たと考えられる。次に、関係 数である。そのために由緒正し 現は、シナ・チベット祖語に つ。そこで、(b)の条件を満た	形式が書記言語に う言語の文語体発生 多用、(3)対句表現の して、(a)書記言語に 寧さや絢爛さが要求 る。この特徴は上記 節標識の多用につい い統語法と見なさき も遡れる可能性のあ すため、書記言語に	残るために生し まの経緯を明ら ひ多用、という には不特定多数 さされること、の とでは、関係な いては、関係な れ、(b)を辞法であ こおいて対句法
		よって、新たに文語体が創い		書記言語の歴史は必ずしも必 いうことである。	安ではなく、ロ頭言	諸の悚々な言
		2. 研	究成果実績の	概要(英訳)		
writing language characterized la relative marker the following t ornateness are As a result colloquial style (a) and (b), the procedure whic condition (b). L more beautiful,	e, and at the s by following the appear freque wo points are likely to be re of the research when a speak e particle freque sh is nowadays astly, elaborate as is general in ant point clarifi	ame time considers how a l ree features: (1) the sente ntly, and (3) elaborate expr assumed: (a) a writing lar quired in a writing language n, the following has been cla er speaks to a lot of listen tently appears in the literar s becoming obsolete. Thus, e expressions, which might n the languages using this ty	iterary style e ence final part essions (= par nguage presup because it ma arified. First, th ers in order to y style. Seco it is consider date back to t ype of rhetorio a long history	n East Pwo Karen, which or merges in a human language. icle /law55/ appears freque allelism) are used frequently. poses the presence of man y be read in various situation is sentence final particle /law o express politeness. Since the nd, using the relative marker ed to be a venerable express he Proto-Sino-Tibetan stage at thus, employing elaborate of of writing language is not alw s of colloquial language.	The literary style of ntly, (2) relative of As premises of our y readers and (b) s including very for v55/ is a form whic his feature satisfy in Pwo Karen is a ssion and used in o s, has an effect of r expressions satisfie	of Pwo Karen i auses with th generalization politeness an mal one. h is used in th both condition n old syntaction order to satisf naking a writin s condition (b)
of a literary sty		3. 3	本研究課題に			
				改主学生社々		
of a literary sty 発表す (著者・	 皆氏名 講演者)	発表課題名 (著書名・演題)		発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	(著書発行年)	発行年月 月・講演年月